

臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成3年新春号



新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

No. 10

平成3年の新春を迎えて



東京支部長 佐伯 益一

一、ごあいさつ

平成という新しい年号にもようやく馴れ親んで2ケ年が過ぎ、今ここに平成3年の新春を迎えようとしております。

同窓ならびに関係の皆様にはめでたく新春を迎えられた事と心からお慶びを申し上げます。顧りみれば平成2年は我々日本人にとって世界的にも、誠に多岐多彩な年でありました。個々の問題についてはひとまず筆を擱くとして同窓会について考えを述べます。

支部大会に出席された方々に御意見を伺ってみましても、「同窓会を盛り立てるのは横の繋り、即ち同期の人達のまとまりが極めて大切」と異口同音に強調されております。私の長年の持論である「同窓会は同級会の積み重ねによって成り立つ」という事が知らず知らずの内に理解されてきたものと喜こんでおります。

先般旧中27回卒のクラス会が津川で開かれましたが、その折にも「佐伯が支部長でいる限り佐伯をバックアップしてゆこうではないか」との話が出ました。誠に有難い事であります。是非、夫々の同級会を立派に育てあげていって頂きたいものと念願しております。会報にも同級会の記事がたくさん出ておりますが、今後会報はこれ等の記事で一杯になるようにと望んでおります。

さて愈々平成3年の秋には母校創立80周年を迎えます。所謂傘寿の祝とも云えるでしょうが、只めでたいと云う事ではなしに一つ一つの機会を適確にとらえ、今後を活用してゆかなければならぬと思えます。恵まれた環境、校舎、増強される施設の中に在って、あとは人材の養成と発掘です。我々同窓一丸となって学校や後輩生徒諸君を応援してゆこうではありませんか。

村松支部発足1年にして125万余の浄財を募られたとの事は正に驚きの一語です。郷党各位の深い御理解の賜ものと敬意を表する次第です。

東京支部としても本年は大会への出席者の倍増を図ると共に益々支部を充実させ、同窓会本来の目的を達成させるべく具体的な方策を樹てたいと念じております。是非共支部会員各位の御協力をお願い致します。

最後になりましたが本年も皆様、益々御元気で夫々の分野に於て御活躍の程を祈念させて頂き年頭の御あいさつに代えます。

二、10号になった支部会報

東京支部会報「臥竜が丘は緑なり」第10号をお届けします。昭和62年6月の支部大会に創刊号を発刊して以来、ようやく2桁台に乗せる事が出来ました。この間における役員諸氏のご努力、ご労苦に対し深く感謝すると共に今後益々研鑽を積み、同窓の皆さんに喜ばれる会報に育てあげたいと念願しております。毎号発行するたびに、表紙の写真はどうしようか、又内容はと、仲々悩みも多いことですが、結局何とかかなり、東京支部の特色を生かした出来ばえであり、ふり返ってみれば又楽しいものでもありました。

東京支部の会報発行が端緒となり、本部に於ては「松城」が、村松支部では「飛竜」が刊行され、夫々母校の伝統、環境を生かした立派な表題のもとに号を重ねておりますが、之みな関係各位の熱意に依るものと思っております。これ等の会報を読む事により、母校の実情を知り、同窓会の活躍を知り、そして支援する事によって同窓会の輪が拡がり、結束が次第に強まってゆく事を喜ばしく思います。支部大会毎にお便りをたくさん載きます、『長年音信不通であった旧友と久しぶりに会えた、』『世話になった人の娘さんに会うことが出来た、』『同姓の人と話し合っていたら、実は従兄弟であった、』等々、「これみな支部大会と会報のお陰です」と、嬉しいお言葉を載いております。ですから会報には出来るだけそのお便りを掲載するようにしておりますし、こうなったらもう旧制だの新制だのとの何のへったくれも無いのです。それにしても今はもう、高校卒の同窓の方の数が極めて多くなってきています。今後は高校卒の皆さんの力に負う処が誠に多いのではなからうかと。然し乍ら、常に思うのは若い年代の人達の同窓会への出席が極めて少く情報が入らぬことであります。本部会報にも書きましたが、今後は多少の費用をかけても若い年代層の掘り起しに全力を挙げ、大いに活躍して頂かねばならぬし、その為に会報は広く読まれなければならぬと、会報の果す役割りも非常に大きいと痛感しております。

何よりも同窓各位からの情報と連絡を頂き、そして会報が充実した内容で埋まるよう望みたいわけでありです。創立80年が一つの節目でもある時、同窓各位の尚一層の御協力を願い、本会報が益々号を増やしてゆく事を期待しております。

〔表紙写真について〕

村松街道本田屋付近より霊峰白山を望む。一直線に伸びた蒲鉄の軌道と白山の連峰は吾等松城健児の魂を結ぶ心のふるさとでもある。

このレールには何百回、何千回とお世話になった事か。無言の裡にもレールは歴史を語っている。（鶴巻幹事 平成2年8月撮影）

盛大だった本年度支部大会

本年度の東京支部大会は6月16日午後3時より上野公園に近い不忍池畔、池之端文化センターに於て開催され、母校より茂野会長、渡邊校長、木村担当教諭をお迎えし、支部会員94名が出席し盛況の裡に大会は始まった。支部会員の出席予定は始めは120名位であったが正午頃の雨が禍いしたのか97名の出席となり、昨年出席者の数より若干下廻ったのは残念であった。プログラムに則り、伊藤組織副委員長の開会宣言、中村事務局長の経過、会計報告、芳賀幹事の会計監査報告の後、佐伯支部長の挨拶、特に挨拶の中で“何も言う事はありません、只、年会費、寄付金の納入依頼に対し、会員の皆さんの対応の速かった事について心から感謝感激しております。皆さんの同窓会に対するご熱意の現れであると思う”との一言は出席者一同を感動させた。次いで茂野同窓会長からは創立80周年記念に対する協力依頼、本年2月に物故された前同窓会長故金子義太氏への追悼の挨拶、並びに東京支部からの弔意に対しての謝辞があり、渡邊校長からは同じく創立80周年記念における諸行事、計画の説明と協力依

頼があり、更に支部大会に90才を越す先輩の出席（長野武氏、中3回卒）への讃辞のあと新任の木村教諭（同窓会担当）の紹介があった。乾杯は中14回卒の村田泰次郎氏の音頭で始まり、あとはもう賑やかさこの上なく各所で懇親の輪が咲いた。佐久間企画部会長の企画による特別出演の“しあわせ太鼓”が一段と雰囲気盛りあげカラオケ、抽選会と会場は盛りに盛り上がった。最後は恒例の支部長による手づめ、渡邊校長の同窓会万才三唱があり、斉藤総務部会長の閉会挨拶で大会の幕を閉じ、役員一同拍手をもって全員を出口で送った。開幕より閉会まで誰一人として中座する人が居なかった事は役員一同を大いに喜ばせた。閉会後は早速、会場側と交渉し平成3年度の会場を6月1日に予約出来た事は幸いであった。最後になったが大会の進行に当り終始裏方に徹して尽力された役員の皆様、並びに多くの抽選会景品を御寄贈賜った皆様。遠路御出席された皆さまに対し深く感謝の意を表し有難度く御礼申しあげる次第である。



来賓席にて
（左から）
渡邊校長
佐伯支部長
茂野会長
亀嶋赤山会会長
横山信夫氏
（後方椅子席）
長野武夫氏



熱演のしあわせ太鼓



万才三唱

平成2年度 支部大会出席者の皆さん

〔旧中の部〕 28名

長野 武夫, 川瀬 五郎, 村田泰次郎, 横山 信夫, 小田 恕哉, 佐久間精一, 亀嶋 謙, 中村 倉吉,
横松 宏平, 堀 哲二, 芳原 英男, 小浜 毅郎, 福原平八郎, 武藤 三郎, 佐伯 益一, 三上 荘平,
中野 博, 伊藤 秀男, 松尾 貢, 相田幸四郎, 地濃 昇一, 佐藤 豊夫, 伊藤 勇五, 芳賀 健一,
斉藤 和男, 加藤三代太, 平上 憲, 関 八十一

〔旧高女の部〕 3名

鈴木 節子, 一氏 愛子, 佐藤 玲子

〔高校男子の部〕 40名

瀬倉 薫, 青木 猛, 篠川 恒夫, 亀山 知明, 根本 俊夫, 渡辺 八郎, 関塚 豪, 長谷川 三郎,
伊藤 勤吾, 今井 道夫, 鈴木多喜男, 大江 佳一, 木村 時也, 大島惣四郎, 鈴木 健司, 三田 達彦,
熊倉 芳夫, 落合 義一, 佐久間英輔, 大橋 俊夫, 八木又一郎, 築取 錦二, 堀 直昭, 佐藤 三秀,
吉井 清, 鈴木 輝雄, 石黒 四郎, 増田 訓英, 鶴巻 浩, 高岡 雄三, 大橋 貞夫, 小日山秀英,
宮沢 正由, 広田 道衛, 今井 英雄, 松尾 了, 青木 敏和, 長谷川安志, 新井 康夫, 山崎 輝彦

〔高校女子の部〕 23名

佐藤 八重, 白石 キヨ, 横溝 田鶴, 宮川 陽子, 深見 洋子, 緒形美恵子, 木村 孝子, 片柳 ムツ,
山西愈佐子, 久我 マキ, 治田レイ子, 波田ミサエ, 正木美美子, 寺山 征子, 真水 道子, 小島 典子,
中川 米子, 岡野 斉子, 飯島 玲子, 斉木 明子, 由良美智子, 小田 育子, 佐々木恵美

〔本部関係〕 3名

(同窓会長) 茂野 敏郎, (学校長) 渡邊 達夫, (担当職員) 木村吉一郎 (敬称略)

合 計 97名

平成2年度支部大会収支決算書

6月16日 地之美文化センター

収 入 の 部			支 出 の 部		
大会会費		726,000	大会飲食費		744,473
男	68名	544,000	会場支払	720,200	
女	26名	182,000	持込洋酒	24,473	
計	94名	726,000	謝 礼		70,000
祝 儀		30,000	特別出演	60,000	
			受 付	10,000	
小 計		756,000	抽 選 会		14,768
			景品清酒	13,700	
一般会計補助		147,884	荷札・袋	1,068	
			通 信 費		43,400
			〔大会案内他〕		
			雑 費		31,043
			〔大会準備, 会議費, 雑品〕		
合 計		903,884	合 計		903,884

〔出席者の声〕 支部大会会場でのインタビューから

当日、大橋、堀、深見の三幹事がテープレコーダー片手に会場の皆さんに街頭録音形式にてインタビューを試み、感想や意見を訊いて廻った。収録したものの中から主なものを紹介してみる。

長野武夫さん（旧中3回卒）

— 中学3回卒ですね、御元気で何よりです、今日は如何ですか、楽しんでいられますか？

楽しいですよ。やっぱりね、年を取ってもネ。

まあ我々は中学、高校と違いますけど同じ系統だね、高校の、つまり先輩だね。我々の頃は県下に中学は九つ位だった。今はもう何十かな？（※県下には県、公、私立で合計116の高校がある。）それだから優秀な人が入った。あそこは御承知の通り村松と云うと田舎の山の中でしょう。だから中学は無かった。そこへ中学が出来た。優秀な人が集って来た。それに年をとった人が多かった。その代り一生懸命勉強した。そして一高、早稲田、慶応、その他の大学へ皆入った。一番盛んな頃でした。私はお陰様で慶応を出てね、あの頃は慶応を出たのは始めて、私がね。

それでもまあ、今だに三田会と云うのがありますけど大正14年から幹事をやってまして、慶応では何とか顔がきいていますよ。それで学校関係の文章なども書いていました。“三田評論”これはもう天下一品でね、それともう少し柔かいのに“隣友”と云うのがあって度々連載していました。

— そうですか、では今度私達の会報にも書いて下さいよ。どうぞごゆっくり。

久我マキさん（高8回卒）

— 今日は御出席ありがとう。どうですか？

楽しいですね。1年に1回だと思って頑張ってきています。皆さんにお逢い出来るから!!

広田達衛さん（第5回卒）

— お久しぶりで、ずい分貫録ですね。

貫録じゃないよ。忙しくてね。講演があるでしょ、今日は予定が延びたので出席出来た。

— 広田さんの学年は最近あまりお出にならないようで

すが？

— そうだね、私が出ないのか、責任を感じるネ、今度から出るようにしないとね、私が声をかけます。

佐藤匡秀さん（高8回卒）

— お久しぶり、今日はインタビューです。

堀君が隠居するって。そういうバカはやめろって僕とめたのにね。そう思ったんだが僕と若さが違うからな。今から隠居すると年とってから苦勞するよ。（佐藤）

年とってから君勞するのは良いんだよ、若い内は遊ばなくちゃ。みんな働いて働いて、そのまま死んでゆく

（堀）

それにしても新しいメンバーが増えないね、これは何か、色々考えないとね。人海戦術でね、次の年代の人達が動力にならないとね。個別に頼んでその人達が持っている人材を開拓していかないとだめだね。（佐藤）

青木敏和さん（高18卒）

— 青木さん、どうも18回でしたね。

今日の出席は私だけみたいですね。私は静岡から来るものですから。でも東京に居る人達は何時でも出られるわけですから、私が声をかければ何人かは出席する連中は居るんですけどね。今日、私は寂しい思いをしています。

— 5人、10人と集めてこういう機会を利用して同期会をやると良いですよ、経費も安くあがるし。

来年からそのようにしたいと思っています。こういう集りがあるんだと云う事をもっと云っておかないとね。

大橋俊夫さん（高6回卒）

— いかがですか？初めての御出席で、

今日、私が思ったことは、欲しいのは横の繋り、オレ今日来てあゝ良かったと思う。佐久間君に会ったからな、それが無かったら非常に苦しい。誰か居ないと寂しいよ。横の繋りを作るのは事務局じゃない。オレ達だよ。学年でやらないといけない。それにしてもオレ、縁がうすかった。高校の頃そんなに親しくなくても今頃逢うとね、何かあるじゃない、ベラボウな郷愁ですよ。居たんだもん。あったんだもん。ベラボウな郷愁ですよ。

会費，寄付金納入の皆さん（敬称，略）

◎ 平成2年度分会費納入者（其の一）

青木敏和、青木 猛、相田幸四郎、相田和平、相田忠亮、相田英三郎、浅井昭男、新井康夫、安中盛介、荒井ルリ子、飯田 清、飯利正作、石黒四郎、五十嵐一郎、五十嵐喜作、五十嵐健、石井典雄、坂垣文平、伊藤秀男、伊藤 靄、伊藤勤吾、伊藤勇五、今井英雄、今井道夫、石井洋子、飯島玲子、飯利 幸、五十畑キヨ、一氏愛子、梅田久次、宇田川綾子、内田道子、大江佳一、小田恕哉、大島惣四郎、大橋秀雄、大橋貞夫、大橋文夫、小野里康興、落合義一、岡田見津夫、岡村嘉志、緒方美恵子、岡野斉子、緒方康子、小田育子、大野靖子、大橋玉枝、片桐賢太郎、川瀬五郎、川崎進一、川合敏男、川村莞爾、笠原大四郎、笠原健二郎、加藤 豊、加藤三代太、金子鶴男、亀嶋 謙、亀山知明、加藤美智子、片柳ムツ、川西恒子、北出昭夫、北沢卓夫、岸谷 武、木村時也、柞瀨政海、木村孝子、熊倉 悟、熊倉芳夫、倉田健五、樽井 了、久我マキ、熊倉芳枝、熊倉悦子、小池生夫、小島哲衛、小浜毅郎、近藤英洋、近藤尚志、小田山芳栄、小柳 実、小林早月、近藤昌子、小島典子、斉藤朝之、斉藤勝三郎、斉藤誠七郎、斉藤和男、佐藤 赴、佐藤豊夫、佐藤匡秀、佐野善吾、佐伯益一、佐久間精一、佐久間二郎、佐久間英輔、沢出晃夫、沢出越允、篠川恒夫、斉木明子、斉藤英子、佐藤八重、佐藤玲子、佐々木恵美、坂爪圭子、式場俊三、茂野宏一、白石キヨ、新保美和、杉山 喬、鈴木政治、鈴木輝雄、鈴木健司、鈴木節子、鈴木則子、関孝世、関 和世、関八十一、関谷捨蔵、関谷雄二、関山健芳、関塚 豪、清野一夫、瀬倉武志、瀬倉 薫、田代信雄、高地 覚、高地 彰、高岡雄三、高久貞夫、田中正紹、高橋研治、国 順一、田川百合子、武内満智子、田中富子、千代国一、池濃昇一、土田 猛、塚田 勝、坪谷次郎、鶴巻 浩、鶴巻旻三、弦巻 等、寺田徳和、寺田徳隣、寺山和夫、寺山征子、出口テル、中川善隆、中野 博、長尾昭次、長野武夫、中村倉吉、中村雅明、成海正弘、奈良泰夫、中川米子、西山莊平、二宮文三、二平 晶、根本俊夫、芳賀健一、長谷川五郎、馬場淑子、治田レイ子、波田ミサエ、樋口菊時郎、平上 憲、広田達衛、福原平八郎、深見洋子、藤崎トヨ、増田訓英、松

田 弘、松尾 貢、松田長四郎、松尾 了、丸山祐平、松本豊子、丸山セイ子、真水道子、升本久子、正木芙美子、水尾広吉、宮沢正由、宮嶋八彌、宮本 昇、宮 健三、箕輪芳郎、宮川陽子、武藤三郎、武藤正昭、村川五郎、村田泰次郎、村田瑠都子、八木又一郎、矢部五郎、築取正通、山崎輝雄、山崎正男、築取錦二、山口基三郎、山口三郎、山岸もと子、山西愈佐子、山田幸子、由良美智子、横松宏平、横山信夫、吉井 清、吉田忠至、吉田正平、吉原英男、米山正嗣、吉井祐江、横溝田鶴、渡辺文男、渡辺八郎、渡辺ミツ、堀 哲二、堀 直昭、滝沢美恵子、吉田公男、山中 孝、鈴木忠雄、鈴木多喜男、波田野義孝。

（以上230名、平成2年9月30日現在）

◎ 平成3年度分前納者（3名）

千代国一、杉山 喬、熊倉悦子

◎ 平成元年度会費納入者（その三）

大橋玉枝、田中正紹、川瀬五郎、瀬倉 薫、沢出晃夫

（以上5名）

◎ 会費納入時における寄付納入者（単位千円）（振込）

板垣文平2、水尾広吉5、築取正通2、武藤三郎2、芳原英男2、沢出越允2、鈴木則子2、木村時也2、真水道子2、土田 猛2、滝沢美恵子7、式場俊三7、寺山和夫2、寺山征子2、山崎輝雄7、関山健芳2、小田山芳栄2、坂爪圭子1

（以上18名 53,000也）

◎ 支部大会当日（6/16）寄付納入者（単位千円）

横山信夫2、亀嶋 謙10、堀 哲二10、福原平八郎2、武藤三郎2、佐伯益一2、伊藤秀男10、伊藤勇五7、池濃昇一3、青木 猛2、八木又一郎3、吉井 清5、大橋貞夫2、佐藤匡秀5、長谷川五郎2、山崎輝雄5、大橋俊夫5、中川善隆2、深見洋子2。

（以上19名 81,000也）

伊藤淳一10（振込）

（以上1名 10,000也）

輝け村松高校 !! 同窓会本部総会に出席して

平成2年8月17日、恒例の同窓会本部総会は生憎の雨で、降ったりやんだりのお天気の中、私は静かな町のたづまいを味わいながら会場の“新滝”へ参りました。

皆様に暖かく迎えられました。出席者の殆んどが役員か、何等かの仕事にかかわっている方が多いと云う事が気になりました。考えてみれば地元ですから何も同窓会にわざわざ出席しなくても何時でも会えるわけで、幹事さん達はさぞやりにくいだろうと思います。都会や地方に出ている人達は年一回出席してみれば何十年ぶりと思わぬ人達に会える感激があるわけで、その点私達東京支部はやり易い仕事をしているわけです。

東京支部の近年の盛況に到るには歴代支部長始め幹事の方々の仕事の合間を縫っての努力があったわけです。

本部総会は意味あいも違うでしょうけれど、何か母校の発展に役立ち、何か魅力があり、集まりたくなる企画等ないものでしょうか、折角の会ですから、もっと生き生きした場に成長させて頂きたいなァと思いました。

尚、総会の議事でしたがこれは殆んどが来年に迎える創立80周年記念の事で、特に屋内練習場の建設に関してが多うございました。これは本部会報“松城”に詳しく紹介される事と思いますので割愛させていただきます。

東京支部からの出席者は

見方謙策、中村倉吉、佐伯益一、鈴木多喜男、佐久間英輔、鶴巻 浩、深見洋子の7名でした。

(深見)

“チョットいい話”

本部同窓会懇親会での事。

◎ 同窓会と母校の発展を願って、乾杯!!

生気溢れる佐伯支部長の声が響き、一同その勢いに乗せられて“ぐうッ”と飲みほし、懇親会は始まりました。私は旧高女出身の先輩方に敬意を表しにゆき、おこがましくも酒を汲み交わしました。その内にお一人が私も東京からの方々にご挨拶にゆきましょと立上り、“それにしても佐伯支部長さんのお話は、すばらしい。御職業は？是非ともお話がしたいですよ”と。私の説明をきいて“さすがァ”。支部長、もてていますヨ。

◎ 前支部長の見方さん。村松の枝豆を他のテーブルからも寄せ集め“これが一番よい、ウン、これはヒトリムスメだな、これだけあればあとは何もいらん”と酒のサカナに。本当においしい枝豆でした。



乾杯の音頭をとる佐伯支部長



懇親会会場

同期会, 同級会は花ざかり

◎ 中 33 回, 高 1 回, 同期会

還暦を迎えた我々旧中33回, 新制高1回卒の3年毎の同期会は秋気の動き始めた去る9月22日, 五泉市咲花グランドホテルで出席者61名に恩師今井, 長谷川両先生をお迎えして盛大に開催された。同期会開催以来初めての大多数の出席であり, 五泉地区幹事の同窓会開催に到るまでのご苦勞に対し衷心より感謝の意を表したい。東京地区からの出席は8名(伊藤勇五, 加藤三代太, 関八一, 中村雅明, 星野公二, 箕輪芳郎, 岡村義夫, 斉藤和男, ……何れも支部会員……)であった。

会は還暦の祈願から始まり, 早速酒宴に入り3年振りの再会ではあったが, 後半は各グループとなり, 学生時

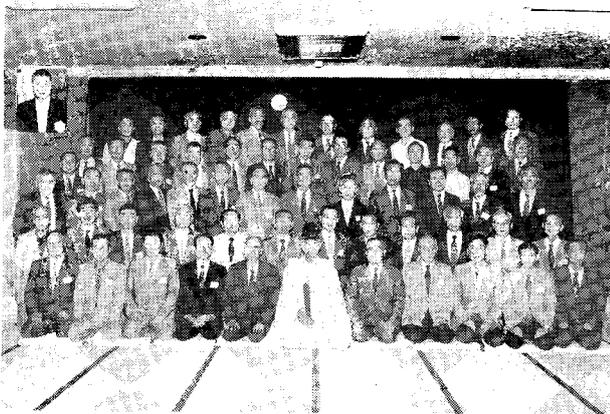
代の思い出に花が咲き, 刻の経つのも忘れて暁方まで盃を交したグループもあったやに聞き及んでいる。翌日は晴天に恵まれて阿賀川ライン下りとシャレで都会の喧噪の一刻を忘れさせてもらった。欲を云って兩岸に迫る山々の緑が色付いてくれていたなどの思いがしないでもなかった。

次回の幹事地区は津川であるが石川代表幹事より3年後の再会を1年遅延して2年後にしては如何かの緊急動議がありほぼ一致で承認された。最後に会場を提供頂き, おそらく台費では赤字であったろう当ホテルの今井和夫(同窓)支配人に厚く, 御礼を申し上げたい。

(東京支部所属, 斉藤和男)

◎ 旧中 27 回, クラス会

旧中27回 略17年度 クラス会が11月10日(土) 鹿角町のキリン山温泉「ホテル福泉」にて開かれた。出席者は遠く千葉, 福島からの参加者を含め計22名で夜を徹しての大団円であった。翌日も降雨のため予定の阿賀川舟下りを中止して朝からの酒宴。もう一晚続けようとの声もあった程。村山幹事の御苦勞に感謝の意を捧げたい。来年は五泉, 新津が幹事と決定した。乞う御期待を, と云う処である。(佐伯)



— 神主さんも同期生のうち —



宴席はかくつたく, あいなる。



応援歌はもう宴会の歌か?

◎ 60年振りの同級会

横山 (旧姓安中) 信夫

旧制中学第15回、昭和5年の卒業ですから年令は78才前後です。

当時の中学は今の高校のような数はなく地元村松のほか、五泉、新津、津川方面など近郊近在の優秀な連中が集った時代です。

不況時代の卒業から戦後を経て、色々な苦勞に堪えながら各方面で活躍し、その使命を終って老境の域に達したのですが、卒業102名のうち戦争や病気で物故者が51名で丁度半数の人が生存しているのですが、矢張りこの年令になると故障者が多く健康を保って元気な人は少なくなっています。

昭和62年の会には、約半数の人が集ったそうですが、昨年9月、新潟市役所退職後の上田正二氏のお骨折りで新潟駅前「ホテル越路」での会は小生も59年振りに、東京在住の田沢修一氏と一緒に出席しました。この時は大阪から権平国雄氏も出席され、16名の集りでした。

歳をとるとこうした気の置けない集りで健康を確かめ合うのが楽しみ1つになるので、又来年も集ろうということになった訳です。

今年は警察関係から実業家自営に転進し成功された五泉市の江口宏氏のお骨折りで、9月19日午後3時集合ということで、阿賀の清流を眺めながら咲花温泉佐取館で集ることになりました。小生は初めてで、こんな素晴らしいところが近くにあるのかと大変嬉しく思いました。五泉市に温泉があるのかと不思議に思っていましたら馬下(まおろし)なんですね。

丁度今年は60年を経た同級会で、昨年お会いした人もいますが、文字通り60年振りの友人も居りました。昨年の59年振りに会った時もそうですが、最初の間は全然誰か判断がつかず名乗り出られても、色々話をしてみても少年時代のイメージと全然異うので苦勞しました。60年の波風にもまれて人生を送ってきたのですから致し方ないことですね。残念ながら昨年より更に減って今年は12名だけの集りでした。

遠く青森の下北半島で北大を経て農林省に入り、退職後牧場を経営している間^{ハザマ} 悌三氏「ますや」も馳せ参じてくれて久闊を叙しましたが、天皇賞を勝ち取る馬を出すまではやめられないと意気盛んなものがありまして中



(昭和5年、第15回卒)の皆さん

上田正二	佐々木四郎	榎四郎	江口宏	西潟勢七	小林正弥	酒井寅夫
	小池重章	樋口武二	間悌三		横山信夫	松田信英

学時代のままでした。

江口宏氏の司会で浴衣にくつろいでの宴会では物故者に黙禱をした后、最初に旧校歌「塵の巷」を歌ってすっかり中学時代の少年に戻ってから乾盃し宴に入るという珍しい形で進行しました。その後は深更まで歓談し、カラオケ、踊りで賑やかな夜を過し、来年は学校の80周年記念の関係もあるし、また村松で集り母校を訪ねようじゃないかということで散会しました。

1人1人の消息は紙数の関係で割愛しますが、中学時代の暴れん坊が満州に渡って苦勞し、女学校の人気教諭となり、自治会長を17年もやってすっかりイメチェンしてしまった佐々木四郎氏、卒業后直ぐ樺太に渡って苦勞して学校の教諭となって内地に帰り今はスポーツ関係で柏崎の知名人になっている松田信英氏、警察関係で努力し署長を長くやってその名を成した小池重章氏、満州で苦勞し、内地では皇宮警察官として、五・一五事件や二・二六事件当時を目の当りにしてきた樋口武二氏など色々な苦勞話を伺いました。

翌日は丁度台風19号が新潟付近通過だったので、風雨の中を20日朝10時頃散会しましたが、青寿の間悌三氏は郡山を経て丁度台風のあとを追いかける形にあり途中足止めを食いながら夜11時頃漸く帰宅できたとのことでした。

来年は果して何人が集れるか、80才を目前にした我々ですが、歳を重ねると金も名譽も不要であり最後は健康です。健康のためにだけに投資し、齢を重ねて長命するだけでなく頭と体を適度に使い、いつまでも元気潑刺な老人で過したいと思った次第です。

〔かんろく堤〕によせて

「越後料理を食べさせてくれる処がある」と今年の幹事が探しあてた「同期会」の会場。11月10日に開催して今年で30回、よく続いたものだ。昭和20年4月県立村松中学入学、一億総戦争、意気軒昂、8月終戦。戦争から開放へ、自由へ、期待と不安を同居させながら極度の転換を強いられた戦後であった。みんな平等に貧しかった。つぎからつぎへとアメリカナイズされてゆく世の中であった。学制改革、男女共学等々、旧制中学から新制高校まで戦中から戦後を通じた6年間であったが、また我々同期のかけがえのない仲間作りの場でもあった。昭和26年春、進学する者、就職する者、各々の進路に向かって散っていった。それから10年後、在京の同期生と再会する機会を得たのである。ところは浅草、心躍りて8人が集った。新潟から東京へと、ところは違っていても昔の仲間、融け合うのに時間はかゝらなかった。健康と前途を祝して何回も杯を交し合った。「毎年会おう」度重なるごとに人数が増えていった。いつの日だったか「会」の名称をとの話が出た。「かんろく堤」誰からか声がかかった。その響が妙に心をとらえた。「これだ」学校の奥

〔赤山会秋季例会〕 10. 14

旧制中学有志の集りである赤山会の秋季例会は10月14日(日)午後1時より新宿三井センタービル54階の「三井クラブ」で17名が出席して開催。当日は好天に恵まれ、高層から下界を見下しながら2時間たっぷり懇談、回顧談で楽しんだ。佐伯支部長から去る8月の母校同窓会の模様、来秋に迎える創立80周年記念事業の概略について説明があり、質疑応答等があった。懇談の中には現母校の現況に対する真剣な討議も数多く出、一同改めて母校愛の意欲を燃やす場面もあったし、又、吉田正平氏の在学時の競技生活における思い出話は心暖まる話であり、出席者の心を打った。午後3時すぎ一同旧校歌「ちりの巻」を斉唱し心残りの裡に、賑やかに散会した。

交換された意見の主なものは大要次の如くであり、出席者の共感を呼んだ。

- ◎ 各地にある同窓会支部に対して本部より、金額の多寡によらず、補助金とか奨励金を出すようにして貰ったらどうだろうか、そうしたら各地の支部の動きも活潑になるのではないか。
- ◎ 在学時代、陸上競技で極限の動きをやった。当時は環境も良かったし、又先生がポケットマネーで食わせてもくれた。孤独であったが精神的な励みにもなった。今でも村松へ入って良かったと思っている。
- ◎ 当時は燃えてる先生が居たし、良い先輩も居た。一時期、一部職員の動きで学校が荒れた時があった。最近では良くなったと聞いているが、今はどうなっているのだろう。
- ◎ 何事も親方次第だ。校長が2～3年で変るのはどうか。長く居て貰いたい。
- ◎ 野球の事については全試合の報告を受けている。勝つ事によって学校の名前が出る。何か一つでも取り柄のあるもの、目玉が欲しい。そうなれば先輩、同窓の応援も変わってくる筈だ。
- ◎ 中学校で成績10番以内の者は他校へ進ませるとの話を知っている、事実なら由々しき問題だ、何か方法はないものか。(※近郷中学校との協議会があるようだ。)
- ◎ 同窓会本部総会の出席者が少いのは同じ町内で何時でも会っているから何を今更という気持が強いのではないか。(※

渡辺 八郎 (高3回卒)

裏に夏の午後、授業をサボって泳いだ堤、秋の午後、快く昼寝をさせてくれた土手、雑木林の中にひっそりと濁り水を湛えたかんろく堤、よし「かんろく会」ひらがながいい。何か人間的な期待が持てそうである。淡いロマンが感じられる。あれから40年、退職した者、現役で頑張っている者、多少姥桜めいた昔の女学生、様々な生活をぶらさげて今年も集った。そしてお互いの生存を確かめあい乍ら越後料理を食べる。そこで一句、浮かぶ。

— かんろくに禿と白髪が集い寄り —

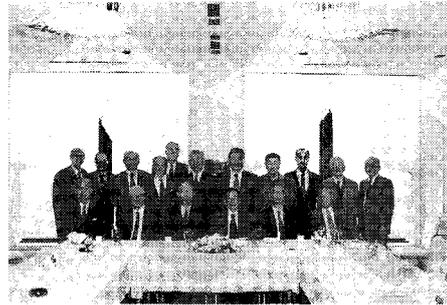
「かんろく会」って新潟県立村松高等学校第三回卒業関東在住者全員の会の事です。

(一宿一飯の仁義にあづかった者も含む)

結構じゃござんせんか。

何時の日か、誰かが独りだけになった時、「かんろく会」も無くなってしまいうだろう。

その時には真の意味で「貫録会」と漢字で書いてほしい。



告知方法に、もっと工夫を凝らすべきでないか)

東京支部から今年は7名も出席している。

- ◎ 80周年記念式典は学校内でやるべきで、又祝賀会も校内で行えば良い、校庭に天幕を張っても出来るだろう。(※学校内に酒類を持ち込むのはいやなものかの発言もあり。)
- ◎ 旧中の5年制と現在の高校の3年制とは異なる面で格差を生じている。高校卒の者は日中卒の者を羨んでいる。
- ◎ 80周年祝賀会に東京支部よりバスを仕立てて大挙参加し前夜祭をやるとの計画を聞いているがどうか。是非参加したい。(※まだ成案をみてないが是非実現したい。東北自動車道を利用するか、又は会津三島経由で若松市、柳津を觀て津川で一泊したい。翌日は竜谷慈光寺、早出川ダム等を見学し定刻まで会場に入ると考えている。蒲原鉄道バスを利用するのも一方法と思う。経費、時間、参加人員等の問題もあるので役員会で案を練り皆さんにご案内したい。佐伯)
- ◎ 雨天練習場の建設資金の募金について東京支部ではどのように対応するのか。
(支部としては今の処まだ考えていない。70周年記念の時は卒業生個々に通知を出し、個人的に応募した、今年もそうなるのではないか、学校より東京に要請に来ると云っている。その結果により対応したい。佐伯) 其他。
- ◎ 当日出席者氏名、()内は卒業回数
水尾広吉 (13)、佐久間精一 (20)、藤田勇 (21)、金子宏 (11)、亀嶋謙 (22)、堀哲二 (24)、小浜毅郎 (24)、板垣文平 (24)、吉田正平 (25)、佐久間二郎 (25)、武藤三郎 (26)、福原平八郎 (26)、佐伯益一 (27)、奈良泰夫 (28)、松尾貢 (29)、関八十一 (33)、加藤三代太 (33)。

お便りの中から

「おすし屋さんの広告」 川瀬五郎（中11回卒）

今年もまた村松高校の同窓会東京支部大会に出席させていただき、なつかしい皆様がたにお会いしまして、幸せな時間をすごすことが出来ましたことを、主催者の皆様に心から感謝いたしております。さて今回いただきました「臥龍が丘は緑なり」第9号の終りに近い12頁にありましたおすし屋さんの広告を拝見して、小生にとっては思いがけない「出会い」がありました。それはその広告に日野尾さんと云うお名前を拝見して、小生が東京で戦争で焼出されて村松の大手通りで昔の小学校の近くで暮しておりました折に、ご近所におすまいの日野尾様ご一家を思い出したのでございます。幹事さんにさがしていただき、ご本人にお会い出来ました。なんと40年も昔のかわいいお嬢さんがそのままに、大きくなられた立派な奥様でした。そして昔のお母様を思い出しました。（自宅に帰りましてその話を家内に報告しました。家内も日野尾さんのお名前を忘れずにおりました。）その後今度は村松の大火ではなればなれになり、彼女のご一家は木越に行かれたと思います。小生一家はまず新潟へ、それから東京の焼あとに小さなバラックを建て再起に向けて出発。敗戦後昭和27年頃までは失意のどん底。みどり濃きふるさとの山々にかこまれた村松の町に再び行かれるのはいつの日かと、頑張りつづけました。そして今日この頃の毎日でございます。近い内に広告の「鮮ずし」さんにおたずねすることを彼女と固くお約束しました。又楽しみがひとつつえました。幹事さん有難度うございました。

◎（前略）過日はお葉書ありがとうございます。御元気で処暑の御様子何よりです。

私も極めて頑健、7月のグアム旅行（4泊5日）で今夏の予定は終りと致しました。就きましては6月の同窓会には久しぶりで元気なお顔を拝見し安心致しました。

いつも乍らの堂々たる佐伯様のスピーチには慈愛と希望が溢れ、感じ入りました。

お酒もビールも沢山載いで大満足でした。

武藤（三郎）氏より14回卒の女性軍と肩を組んで撮った写真を送って戴きました。去年の羽沢ガーデンの際撮

りましたスナップ、胸の標識から名簿を繰り数名の方に送りました処大変喜ばれました。大親友で同級生の朝倉真君（故人）の姪ごさん（14回卒由良美智子さん）も発掘出来、大収穫でした。来年の再会を楽しみにしております。又近い内に古い写真をお送り致しますので御検討下さい。（旧中26回福原平八郎氏より佐伯支部長へ）

◎ 去る6月16日の支部大会では大変お世話になりました。御厚情を深く感謝しております。

久しぶりに出席してお元気な皆様にお会い出来て嬉しく大いに鞭撻激励されるものがありました。昔を思い出して若返るものがありますので同窓会は良いですね、心暖まるものがあります。（後略）（旧中14回、村田泰次郎）

◎ 同窓会総会の折の写真ありがとうございました。大変よく撮れておりました。いつも東京支部のバイタリティーに敬意を表しております。

（伊藤淳一氏（旧中33）より鶴巻幹事へ）

◎ この他横山信夫氏（中15回）、小田恕哉氏（中16回）、武藤三郎氏（中26回）、塚田弘氏、近藤美智子さん始め多くの皆さんからお礼のお便りを頂いております。

◎ 加藤氏の還暦祝



写真は花束を受
ける加藤氏御夫妻

旧中33回卒の加藤三代太氏が代表取締役の三証株式会社の創立25周年記念と同氏の還暦を祝う祝賀会が8月26日（日）午後2時より紀尾井町のニューオータニ・クリスタルルームで盛大に開催された。業界関係者、親戚・縁者出席の他、松高同期からは芳賀健一、星野公二、小柳実、平上憲、佐原茂の各氏がお祝いに駆けつけ、東京支部からは佐伯支部長、中村事務局長が出席した。

同窓会を代表して挨拶に立った佐伯支部長、ライトを向けられ思わず「かがっばいなー」ところが司会の三遊亭小金馬、この意味がわからず、客席を訊いてまわって、やっと「まぶしい」事と判明、場内大爆笑、新潟県出身者を大いに喜ばせる一幕もあった。

思い出の写真集

おんどん 村松分屯大隊兵士慰安学芸会記念

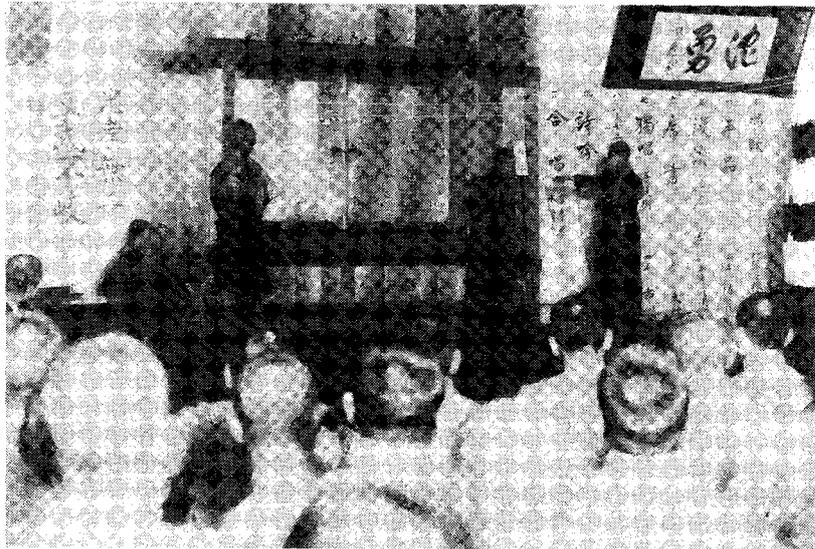
(昭和11年2月講堂にて)

昭和11年の紀元節を祝し、併せて村松分屯大隊兵士(大湊曹長以下25名)を慰安する目的をもって、第1回学芸会を2月11日午後0時50分から講堂において開催した。

プログラムは、生徒の狂言、詩吟、尺八、手品、独唱と村松小学校生徒の唱歌、遊戯などで、午後3時盛会のうちに終了した。

いがぐり頭の後ろ姿の人達は、新発田歩兵第16連隊村松第三大隊の下士官兵である。

(臥龍第24号、昭和11年学校日誌から)



創立30周年記念式典

(昭和16年11月講堂にて)

太平洋戦争の始まる約1か月前の昭和16年11月5日(水)に、本校創立30周年記念式典が挙行された。第9代校長那須常正先生は、壇上で本校設立の経緯、生徒へ

の期待などを述べられた。

正面に向かって右側に「沈勇 賢龍書」と書かれた大きな額が掲げられている。これは、創立20周年記念講演会の時に、講師として来校された広島文理科大学長吉田賢龍先生の書である。(中28 齋藤朝之)



〔駅伝〕村松高Aチームが優勝!! (昭和31年)

新潟日報社，新津市体育会主催の第五回，県下高校三新駅伝競走が昭和31年10月14日，県下26ヶ校34チームが参加して，正午新津駅前をスタート，沿道を埋めた人々の声援にこたえて新津—新潟折り返し37.4 Kmのコースで熱戦を展開し，村松高Aチームが2時間25分53秒で優

勝，栄えの優勝旗を獲得した。2位は与板高（2.27.38）で新潟市長杯を，3位は柏崎工高A（2.28.50）で新津市長杯をそれぞれ獲得した。

写真はその時のもので新潟日報紙上にも大きく掲載された。



(新津駅前ゴールに入る関谷雄二選手)



優勝した村松高チーム（立っているのがAチーム）
石井守雄，関谷雄二，酒井繁雄，笠原元一，今井政夫先生
山田一英，増田訓英，斎藤正男，樋口守（Bチーム）

支 部 大 会 予 告

平成3年度 東京支部大会は6月1日（土）午後3時

上野不忍池畔

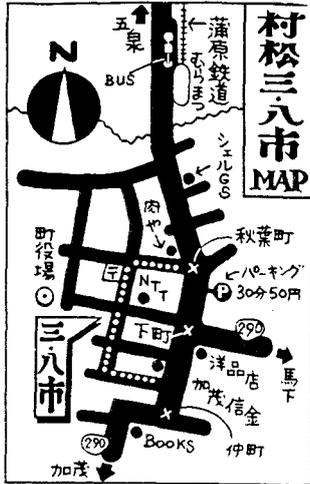
池之端文化センターにて開催いたします。

多くの皆様方の御出席をお願いいたします。

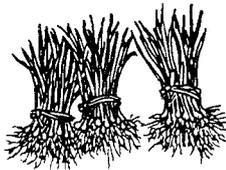
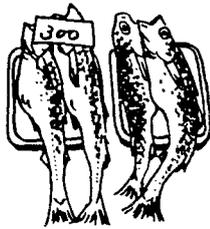
村松の露店市

ここ村松の定期露天市は、史料が少なく発生は定かでないが、寛政5年(1793)『加茂組明細帳』に、「元禄3年(1690年)2月初見」と見え、少なくとも300年前には存立していたようである。

元禄前後の藩政時代は、各地で地域振興策として「市」の設立を認めているが、堀氏3万石の城下町村松藩もその1つだったのである。



鱈とタマネギ苗



市日は、当初から3・8の日の六斎市。本通りを中心に、昭和34~35年まで立っていたものを、交通事情等で昭和36年、現在地に移転した。

日取りは、今も変わらない。時間は、日の出から午後3時(夏時間は4時)までで、ひと昔前の昭和50年頃には、約170軒も並んだというが、昨今は平均80軒前後の出店。

晩秋のある1日訪ねた時も同様の規模で、これはウィークデーと生憎の雨もようだったのを割引いても、少し静かすぎる気がした。

それでも、白菜やゴボー、サトイモを並べた近在農家の主婦をはじめ、タネ屋さん、田前掛や衣料を売るおばさん、五泉などからやってきた魚の店、はきもの店、珍しく呉服地を売る母子などのプロが天幕を張り頑張っていた。

11時前後、町中の主婦、在郷の人たちが、冬の作付け用のタマネギやキャベツの苗を買ったり、鮭を切らせたり、とひとしきりさんざめくと、午後は殆ど人通りが絶え、不思議な静寂が流れる。

これもまた新潟の市風情の1つなのだろう。

初春を迎え、名物寒鮓が出盛り、賑わい市となるはずだから。

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|-------------|-------------|---------------|----------------|---------------|---------------|
| 青木 高二 猛卒 | 篠川 高恒 二夫卒 | 岡本 和子 五回卒 | 小田 林早 五回卒 | 中村 雅明 三回卒 | 堀 哲二 四回卒 | 芳賀 健一 三回卒 | 佐久間 英輔 六回卒 | 全画部 會長 第六回卒 | 工務部 會長 第六回卒 | 各務部 會長 第三十三回卒 | 経理部 委員長 第三十三回卒 | 事務部 會長 第三十三回卒 | 東京支部 益一 二十七回卒 |
| 山西 愈八 回卒 | 木村 孝八 回卒 | 片柳 ムツ 八回卒 | 塚田 高八 回卒 | 堀 直八 回卒 | 深見 洋七 回卒 | 築取 錦七 回卒 | 八木 又一 郎七回卒 | 大江 佳四 回卒 | 鈴木 多喜 男四回卒 | 渡辺 八郎 三回卒 | 関 孝三 回卒 | 今井 高二 回卒 | |
| 渡邊 校長 達夫 | 同窓会 會長 旧中野 敏七 郎卒 | 赤山会 會長 旧中野 謙二 回卒 | 今井 高十五 回卒 | 今井 高十五 回卒 | 田代 高十一 回卒 | 小島 典十 回卒 | 寺山 高十 回卒 | 真水 高十 回卒 | 鶴巻 高十 回卒 | 大橋 高十 回卒 | 石黒 高四 回卒 | | |

広告募集 !!

会報に掲載する広告収入も東京支部発展への運営資金となりますので、御協力をお願い致します。

社名、社長名、事業内容及び人員募集など所在地、電話番号、写真等原稿をお寄せ下さい。出来れば完全版下での寄稿を歓迎します。広告の大きさはタテ5cm、ヨコ8cmで、5,000円です。その他大きさなど、ご相談下さい。

財務部よりお願い

平成2年度の支部会費を未納の方はお手数でも同封振込用紙にて、ご送金下さいますようお願いいたします。

(支部会計年度は4月から翌年3月までです)

年会費 3,000円

尚、支部会計不如意のりから、寄付金等、各位の浄財をいくらかでも上乗せして頂ければ幸に存じます。

御宴会に・御会合に

江戸前 せん すすし
鮮 寿 司

正木美美子(高9回卒)

TEL 3800-9720

〒116 東京都荒川区東尾久5-8-6

編集後記

会報10号を会員の皆様にお届けいたします。新年号の会報はお正月に間に合うよう9月中旬から編集会議を繰り返しながら12月中に発送出来るはこびとなりました。

10号では紙面の都合により「今村均大将回想録再読し」は次回に掲載させていただきます。

本号発刊に際しご寄稿や広告掲載を賜りました方々には厚く御礼申し上げます。

広報部よりお願い

会報「臥龍が丘は緑なり」への寄稿をお待ちしています。内容は自由ですができれば学校時代の思い出、郷里に関する事がら等書いて頂ければ幸いです。紙面の都合上400字詰原稿用紙2枚～3枚以内で、お願い致します。

尚、同窓会や会報に対するご意見、ご感想もお待ちしております。より良い同窓会支部会報づくりのために、皆様の御協力をお願い申し上げます。次号(第11号)の原稿切は3月末日です。

三条ビジネス株式会社

社長 五十嵐 健
高校6回卒業(村松町出身)

東京都新宿区西新宿1-10-1
安田生命第2ビル7F
東京事業部 東京都江東区佐賀1-17-7
安田信託銀行証券代行部内
TEL(03)3820-0346(代)
調布事業所 東京都調布市国領町8-2-15
安田信託銀行東京情報センター内
TEL 03 3430 8200(代)

随時女性事務パート社員募集中

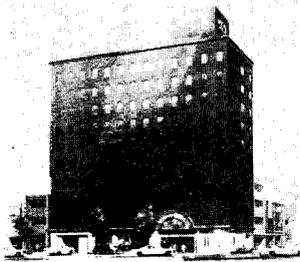
又、時間と費用をご負担いただきました佐伯支部長、中村事務局長はじめ関係者の皆様に心より感謝いたしております。

今年も支部会員の皆様方の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

広報部スタッフ

沢出赳允 高6回卒 鶴巻 浩 高10回卒
深見洋子 高7回卒 寺山征子 高10回卒
堀 直昭 高8回卒 真水道子 高10回卒
大橋貞夫 高10回卒

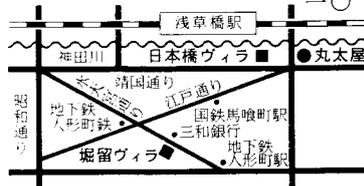
ビジネスに 2つのヴィラ



● 電話 (03) 三六六八〇八四〇
東京都中央区日本橋馬喰町二二二
● 日本橋ヴィラ



● 電話 (03) 三六六四一〇八四〇
東京都中央区日本橋堀留
● 堀留ヴィラ



● シングル 6,500円より
(税・サービス料込)

BUSINESS HOTEL **ヴィラ**

丸太屋株式会社

代表取締役副社長 塚 田 勝

(高8回卒)

〒103 東京都中央区東日本橋2-26-8
電 話 03-3862-0681

自 宅 浦和市原山4-23-12

商品管理・保管・及び流通加工
御社の分身としてご活用下さい。

京葉梱包倉庫株式会社

本社 ・ 東京都江戸川区篠崎町5-14-23
TEL (03) 3670-5221 (代)
FAX (03) 3676-1100

第一事業所 東京都江戸川区篠崎町2-189 TEL(03) 3678-3601(代)
第二事業所 東京都江戸川区篠崎町5-14-23 TEL(03) 3698-4711(代)
第三事業所 東京都江戸川区篠崎町4-24-1 TEL(03) 3678-9211(代)
第四事業所 東京都江戸川区篠崎町5-13-18 TEL(03) 3678-8791
第五事業所 東京都江戸川区南篠崎町1-2-16 TEL(03) 3676-0125

平成3年1月 第10号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部
広 報 部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24
TEL 03-3445-6501 (株) 寿内

郵便振替 東京 2-136445